

会報 第154号  
 発行日 平成29年8月1日  
 発行・編集 V・G 概論  
 代表者 大岡成一  
<http://web1.ibj.co.jp/~kirin>

# V.G 概論だより

## わがまち紹介

### 進化する中之島

#### 水都・大阪のシンボル 「フェスティバルシティ」

7月13日梅雨時期の気温と湿度の高い日でした。午前中に大阪中之島フェスティバルタワーの朝日新聞大阪本社と午後朝日新聞大阪工場(トッパンメディアプリンテック関西)を訪問させて頂きました。朝日新聞大阪本社は、新しく完成したタワービルの明るく快適な事務所の中を多くのスタッフの方々に案内とお世話になりました。朝日新聞大阪工場(印刷工場)では案内係の内藤律子さん達に丁寧な説明をさせて頂きました。



フェスティバルシティ

#### 大阪中之島

古くから大阪の経済文化の中心地としてにぎわい、水都・大阪のシンボルゾーンとなってきた中之島エリア。

近年は再開発が進み、中心部では、中之島フェスティバルタワーをはじめとする高層ビル群がスカイラインを描いています。そのまちづくりに向けたのは、地域の企業などからなる中之島まちみらい協議会が大阪府・市と協力しつつ、中之島まちづくり構想を策定された。

島内を八つのゾーンに分け、それぞれに特色あるまちづくりを目指しています。

大きな特徴としては、大阪の中心部を南北に貫く大動脈・御堂筋を境に、東西で異なる表情を見せること。文化公園ゾーン」歴史景観再生ゾーン」などの東部エリアは、市民はもちろんのこと、内外の多くの人々が行き交う、大阪でも有数の憩いの場となっています。一方、西部エリアは、ビジネス機能と文化発信、さらには住宅地として住む機能が加わり、再開発が活発になされています。

その東西を結ぶ要となる街区が、グローバルメディアビジネスゾーン」。



メガトラス・ベルトトラス構造

中之島フェスティバルタワーの画期的な建築構造計画です。

阿波野昌幸氏デザイナーの本建物の構造計画上の最大の命題は、座席数2万7千席の大ホールの上部に、センターコアの超高層コアを積み上げることを、高い構造的な

千人が働く新たな街、フェスティバルシティが生まれました。

文化発信の中核施設であるフェスティバルホールを擁する中之島フェスティバルタワー、そして、都市型美術館や多目的ホール、国際級ホテルが入る中之島フェスティバルタワー・ウエスト。中之島を訪れる人々を迎える2棟のタワーは、新たな街のシンボルとなることでしょう。

### 朝日新聞大阪本社



目の前で編集し印刷されました

能を確保しながら実現する、という点です。

朝日新聞大阪本社は、大阪府を中心とした近畿地方(三重県の伊賀・東紀州を含む)及び中国(山口県を除く)・四国・北陸地方に於いて朝日新聞を印刷・発行する朝日新聞社の地域本社です。

朝日新聞社は大阪発祥であり、現在も登記上の本店は大阪本社です。東京本社による新聞発行が不可能となった場合(地震や火災、戦災などの有事の際)には、その業務を引き受けるバックアップ機能的な側面もある。

中之島フェスティバルタワーに移転した大阪本社の見学は、水都大阪

を一望できる12階アサコムホールからスタートしました。

11階編集局、12階では新聞制作の今昔や印刷の仕組みを紹介しています。

10階では過去に発行してきた新聞を見ながら、朝日新聞の歴史を学びます。

#### 朝日新聞 大阪工場(印刷)

朝日新聞大阪工場(印刷)は大阪本社から車で15分ほど、大阪駅から同じくらいの距離に立地しています。

大阪工場は平成25年1月にフル操業を開始した。朝日新聞の印刷工場の中では一番新しい工場です。

朝日新聞を印刷する工場としては全国最大規模となる。朝日新聞朝刊60万部、夕刊32万部を大阪市内、北摂、奈良などのエリアへ供給するほか、日刊スポーツや朝日小学生新聞、日本農業新聞など12紙を印刷し大阪本社管内のほぼ全域に向けて発送されます。

### 2017年8月度行事予定

近代湾発祥の地「大阪」の海の玄関  
 大阪市港区(海遊館)

月 日:平成29年8月10日(木)  
 集合:海遊館 入り口前 集合時間: 9:00  
 訪問先:海遊館・プレミアムバックヤード見学予定  
 その他:1)雨天決行  
 2)詳細は別途配布資料を参照下さい。

### 2017年9月度行事予定

「天下の台所」と呼ばれた蔵屋敷まち  
 大阪市北区中之島(日本銀行大阪支店)

月 日:平成29年9月13日(水)  
 集合:大阪役所1階市民ロビー 12:50  
 訪問先:日本銀行 大阪支店  
 その他:1)雨天決行  
 2)詳細は別途配布資料を参照下さい。